

研究課題	生徒のやる気を引き出す授業づくり
副題	～授業のユニバーサルデザインを意識して～
キーワード	支援方法の工夫
学校/団体名	公立金沢市立長町中学校芳齋分校
所在地	〒920-0932 石川県金沢市小將町 1-15
ホームページ	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/kosyoumachi-j/view.php?pageId=1025

1. 研究の背景

○本校は、金沢市の中心部に位置し、兼六園や金沢城に隣接している。石川県内の中学校として、ただ一校の特別支援学級の分校である。昭和 51 年に設置され、市内から 77 名の生徒が通学している。生徒数は年々増加傾向にあり、現在の学級数は 13 学級で、その内訳は、知的障害特別支援学級が 5 学級、自閉症・情緒障害特別支援学級が 8 学級である。小規模ではあるが、毎年学級編成を行っている。5 教科のうち、国語と数学は習熟度別、社会、理科、英語は学年別で授業を行っている。令和 6 年度には、金沢市立中央小学校芳齋分校（小学校として、県内唯一の特別支援学級の分校）との一体型校舎になる。互いに本校をもつ、小学校と中学校の特別支援学級の分校が「学び」をスタートさせる。学習指導要領の改訂に伴い、令和 3 年度より新たな教育課程を編成し、より中学校学習指導要領に準ずるもので、「学び」を深めてきた。本校は金沢市の特別支援教育実践拠点校として、「先進的な実践研究の普及と発信」、「具体的な教材や指導事例の情報発信」、「ICT を活用した実践研究」、「教育プラザと連携した実践的な研修」等を担っている。一昨年度より導入された Chromebook を活用し、「金沢市中学校教育研究会 特別支援教育部会」の Classroom を開設し、本校の研究実践に関する資料を発信することで、市内の特別支援教育の充実を図ろうと考えた。

2. 研究の目的

○令和元年度より、生徒が自ら考え、積極的に活動に取り組むための指導の工夫や有効な支援の手立てを工夫したいと考え、研究主題を「生徒のやる気を引き出す授業づくり」とした。各学期に行う授業アンケートでは、「進んで授業に取り組めたか」の肯定的評価の数値が 92 %と、前向きに授業に取り組む生徒が多い。どの授業でもほとんどの生徒は前向きに取り組んでいるものの、全員とは言えない状況にあり、教科によって偏りもある。授業でのバリアを生じさせる発達障害の生徒の特徴とバリアを除く教育方略や指導方法、支援方法を工夫することにより、全員が「わかる、できる」ユニバーサルデザインの視点を重視した授業を目指し、一昨年度より副題に「ユニバーサルデザインを意識して」を加えることとした。生徒全員がバリアを感じずに授業に取り組めるように、本校の研究の重点を①「学習課題をつかみ、考えをもたせるための工夫」、②「考えを伝え合うための工夫」、③「考えを深めるための工夫」の 3 つに設定した。①では、課題の提示方法の工夫や興味・関心を喚起させるような活動の導入を行う。②では、生徒同士、生徒と教師が関わり合える場面の設定や、自分の考えをどの生徒ももつことができるように時間を確保、考えをもつヒント等を準備する。③では、他者の考えを共有したり、自分と異なる考

えを取り入れたりできる場面の設定、生徒に気付かせ、考えさせる発問を吟味する。

また、生徒全員が主体的に参加する授業づくりを実践するために、時間や場の構造化、刺激の調整、ルールの明確化など学習環境に配慮する。授業展開の構造化やスモールステップ化により、理解を促進し、学習内容の定着を図ることを意識して研究実践を行うこととした。

3. 研究の経過

- ① 4月 5日 今年度の学校研究についての提案
学力向上の取組[1学期]について
(学習課題をつかみ、考えをもたせるための工夫)
 - ② 4月 20日 分校テストについての提案及び話し合い
 - ③ 5月 17日 研修部による提案授業
対象者：特別支援教育に初めて携わる教員
学校研究に合わせた授業の流れやどのような支援が効果的かを確認
 - ④ 5月 25日 生徒理解研修（主に新入生について）
 - ⑤ 6月 22日 色覚異常のある生徒への板書の方法について
1学期の重点取組について
(「課題をつかませるための工夫」「自分で考えるための支援方法」について有効だった取組を集約及び全職員で共有)
 - ⑥ 8月 29日 公開研究発表会での研究授業の指導案検討会（数学科、英語科）
学力向上の取組[2学期]について
(考えを伝え合うための工夫)
 - ⑦ 9月 27日 公開研究発表会に向けての話し合い①
相互授業参観について（期間：10月30日～11月10日）
 - ⑧ 10月 26日 公開研究発表会に向けての話し合い②
 - ⑨ 11月 16日 2学期の重点取組について
(「考えを伝え合うための工夫」について有効だった取組を集約及び共有)
 - ⑩ 1月 12日 学力向上の取組[3学期]について
(考えを深めるための工夫)
 - ⑪ 2月 8日 来年度の学校研究の方向性について
 - ⑫ 3月 13日 3学期の重点取組について
(「考えを深めるための工夫」について有効だった取組を集約及び共有)
- その他 ・金沢市特別支援教育実践拠点校事業 公開研究発表会（11月8日）
・生徒の授業アンケート（各学期に1回）
・職員のセルフチェックアンケート（各学期に1回）
・金沢市中学校教育研究会 特別支援教育部会（1年に4回）

4. 代表的な実践

金沢市特別支援教育実践拠点校事業 公開研究発表会

① 数学科研究授業

学習課題 「ボールが坂を下るとき、時間と移動距離にはどんな関係があるだろう？」

展開①では、学習課題をつかませるための工夫として、実際にボールを転がして見せ、どのように転がるかの感覚をつかませたり、1秒ごとの到達点を予想させたりした。実物を使用して予想することで、課題に対する関心をもたせることができていた。

展開②では、自分で考えるための工夫として、GeoGebraを用いた。移動距離が時間の2乗になるシミュレーションを操作させて、関係性を考えさせた。ICT機器の活用で、生徒の理解の助けとなっていた。



展開③では、自分の考えを伝え合うための工夫として、グループごとに相談する時間を設けた。相談することで、考えを説明しやすくすることができた。



展開④では、みんなで考えを深めるための工夫として、またGeoGebraを用いて、移動距離が時間の2乗の2倍になるシミュレーションを操作させて、関係性を考えさせた。前半の事象の結果や周りの意見を参考にしながら、グループ内で自分の考えを伝え合うことができるかどうか为本時の評価場面であったが、上手く伝え合うことができていた。自分の考えを伝えられない生徒には、ワークシートに考えを書かせて、それを他の生徒に見せることで考えを共有させようと準備していたが、本時ではその支援は必要なかった。

成果と課題

数学科の授業は習熟度別のクラスになっている。このクラスは自閉症・情緒障害特別支援学級の3年生のみで構成されている。そのため、普段の授業でも活発に意見をやり取りする雰囲気があり、本時もよい雰囲気で授業を進めることができた。数学に苦手意識がある生徒も多いが、具体物の使用やICTの活用、グループ活動を取り入れることで、生徒のやる気を引き出すことができた。特に、ICT機器の活用は、生徒興味・関心をもたせるだけでなく、理解を助けるのによりアイテムとなっているので、より効果的な使用方法を探っていきたい。

授業展開での課題は、活動を詰め込みすぎてまとめの活動まで進めることができなかったことである。教師としては、あれもこれもさせてみたいという欲が出てしまうが、一時間の授業の中でできることをしぼり、まとめや振り返りまでさせることが大切である。タイムマネジメントを意識して授業の流れを考えていきたい。

② 3年英語科研究授業

学習課題 「〇〇したことがある」ってどういうの？」

展開①では、ウォームアップとして **Chromebook** を用いて単語練習を行った。毎時間行っている活動なのだが、スライドショーの自動再生を選び、各生徒が自分に合った速度で練習している。この活動では、単語の発音が片仮名で書かれているのだが、英語や日本語の意味を見て発音できるようになったら、片仮名を消すこともできるので、「個別最適」な活動となっている。



展開②では、学習の課題をつかむために、大型テレビに課題につながる映像を映した。そうすることで生徒の興味・関心を引き出すことができた。



展開③では、自分で考えるための工夫として、新しい表現を教師の後に続いて発音練習した。繰り返し練習したり、一人ずつ発音を確認したりして、全員が自信をもって新しい表現の文を言えるようにした。



展開④では、自分の考えを伝え合うための工夫として、**Google** スライドを用いた。まず自分が経験したことやしていないことの絵を移動させた。その後ペアになり、交互に自分のことを伝え合った。また、相手が言ったことを聞き取り、絵を移動させた。会話の流れを黒板に提示し、言い方の練習をすることで、自信をもって言えるようにした。

展開⑤では、みんなで考えを深めるための工夫として、「1回したことがある」という言い方を紹介し、さらに「2回～何回も」の言い方も考えさせた。ここでも教師のあとに続いて繰り返し練習することで、生徒に自信をもたせた。

展開⑥では、「わかった」「できた」をまとめる活動として、**Google** フォームを用いてまとめ問題に取り組んだ。

成果と課題

このクラスは知的障害特別支援学級である。生徒はこれまで、課題解決のために **ICT** を利用し、情報を収集したり、情報共有を行う経験を積み重ねたりして、知識を得ることができている。意欲的に学習活動に取り組む生徒たちだが、自信がなく、自分の作った英文が合っているかどうかをすぐに教師に尋ねる生徒が多い。また、学習内容を記憶に留めることに困難を抱える生徒も多く、既習内容の定着は難しい。そこで、生徒一人一人に発言の機会を与え、ドリルを多く取り入れることにより、英語の発音に慣れさせると同時に、ペア活動を取り入れ、発話の機会を増やし、安心して発話できる環境づくりに努めた。活動の参加状況や発言に対して励ましや賞賛を与えることにより、英語を話すことへの自信につなげることができた。

授業展開での課題は、考えを深める場面で、教師が準備した英文を言わせるだけでなく、生徒

が考えた英文を言わせてみたらよかったとの助言をいただいた。単元計画では、後日自分で英文する場面を準備していたが、展開⑤で言わせてみればよかったと思う。

5. 研究の成果

①研究の重点を意識した授業づくりと授業力向上について

ICT、特に一人一台端末 Chromebook の効果的な活用を模索し、授業に導入している。Google スライド、Google フォーム、オクリンクと学習のねらいや学習しやすいグループ形態に合わせてアプリを選択することで、小集団の強みを生かした「協働的な学び」や「個別最適な学び」を充実させることができた。

②学習活動のキーワードの提示について

学校研究の重点取組に合わせ、毎月の分校集会において、各月の学習キーワードを生徒に提示し、意識して活動に取り組みさせた。

4月：「2分前」授業開始チャイムが鳴る2分前には着席し、授業の準備をする。

5月：「聞く・聴く」他の人の話をしっかり聞く（聴く）。

6月：「考える」話を聞いたら、自分でよく考える。

7月：「まとめる」1学期の自分の学習活動を振り返り、まとめる。

9月：「話す」ただ話すのではなく、相手を意識して話す。

10月：「伝え合う」相手を意識して話したり聞いたりする。

11月：「伝え合う」10月より更に意識して取り組む。

12月：「まとめる」2学期の自分の学習活動を振り返り、まとめる。

1月：「考える」どんな場面でもしっかり自分で考える。

2月：「深める」みんなでもよく考える。

3月：「まとめる」3学期の自分の学習活動を振り返り、まとめる。

③家庭学習強化週間について

家庭学習強化週間を設け、家庭学習の充実を図ることができた。今年度は一般高等学校への進学に備え、問題集やドリル等を選んで購入できるようにした。また、今年度から学期に一度テストを行うことにした。そのため、家庭学習強化週間をテスト前の一週間とした。

④「金沢型学習スタイル」に合わせた授業展開について

「金沢型学習スタイル」及び「ICT 版金沢学習スタイル」に合わせ、「導入→展開→終末」の流れを意識して、教師一人一人が実践を重ねることができた。また、学期に一度自分の取組を振り返る「セルフチェック」を実施することで、日々の授業改善の意識が高まった。



⑤相互授業参観について

公開研究発表会に合わせ、相互授業参観期間を設けた。他の教師の授業を参観し、「よかった点」と「改善点」を付箋に書き、職員室内の模造紙に貼った。「よかった点」を自分の授業に取り入れていくことで、授業改善につなげることができた。また、自分の授業について他の教師からアドバイスを仰ぐことでも、授業改善につなげることができた。

⑥生徒理解研修について

生徒の特性や授業での取組の実態、授業アンケートをもとにした具体的な支援を検討・共有することで、意欲的に取り組むことができる授業づくりを実践することができた。

6. 今後の課題・展望

○特別支援教育実践拠点校として、平成 26 年度から様々な取組を実践してきた。昨年度から研究の副題に「授業のユニバーサルデザインを意識して」という文言を加え、どの生徒も必要な支援を受けることによって、授業に参加し、「わかった」「できた」が実感できる授業づくりを目指し、指導の工夫に努めた。また、各教科で ICT の効果的な活用を模索し、実践してきた。

今後も継続して、個別の教育的ニーズに的確に応える指導を提供するために、障害のある生徒及び保護者との相互理解を促進し、教育相談を行いながら、「小集団の強みを生かした協働的な学び」や「個別最適な学び」の充実を図りたい。

7. おわりに

○研究助成という貴重な機会をいただき、当研究に臨むことができた。今年度は厳しい人事配置のため、残念ながらじっくり研究に取り組む余裕がなかった。しかし、金沢市特別支援教育実践拠点校事業は今後も続く。初めて特別支援教育に携わる教員や金沢市内の特別支援学級の担当者に対して、どのような支援方法があるのかを提案していかなければならない。これまでに積み上げてきた実践をさらに発展させながら、特別支援学級の「学び」を積極的に発信していきたい。

8. 参考文献

・パナソニック教育財団『令和 4 年成果報告書』

http://www.pef.or.jp/01_jissen

・『配色のバリアフリー 伝わるデザイン』

<https://tsutawarudesign.com/universall.html>